

巻頭言



内閣府認証 NPO法人
ジャパン メディカル ケア アソシエーション
(JMCA)

理事長
西川 雅夫

「愛と協同」

久しぶりに、生活協同組合コープこうべ（通称／コープこうべ、元の企業名は灘神戸生活協同組合）に行きました。創始者は、あの聖路加病院の日野原重明医師が尊敬してやまない、賀川豊彦師（生協運動の父とも言われている）で、師の指導のもと1921年に誕生し、1962年に灘神戸生協として大きく飛躍した商業施設です。

原点は、「愛と協同」で、一人ではできないことも、みんなの力を合わせて、願いや夢をかたちにするという意味です。灘神戸生協では標語として「One for all, All for one」（日本語では、「一人は万人のために、万人は一人のために」と訳されています）が使用されていました。

この言葉は、SDGs 17の「Partnerships for the Goals」をSDGs設定のはるか昔より実行していた証です。賀川豊彦師はホスピスの提唱者としても、キリスト教の教会グループのイエス団の創始者としても知られています。

聖書の中の「99匹の羊を野原に残しておいても、1匹の迷える羊」を探しにいく譬え話の精神は、SDGsの誰一人取り残さないという考え方そのものであるとも思えます。それは生協運動の中に脈々として継続されていた筈です。

また、販売している食品の品質管理にも拘り、灘神戸生協時代はここで販売されていること自体が食品の安全・安心に繋がると消費者の意識があったものと記憶しています。これは「Ensure Healthy Lives and Promote Well-being for all at all ages」で現されるSDGsの「Good Health and Well-being」に他ならなかった食品群だったのではなかったのでしょうか。

今、現実のコープこうべに、偶に行ったとしてもその精神に溢れているかどうかは知る由もありません。仮に営利主義に走っていたとしても、いたし方ないとは思いません。

企業人の立場としては、「Sustainable Cities and Communities」のSDGs 11やSDGs 8の「Decent Work and Economic Growth」が気になるところですが、私個人の目標としている「Life below Water」や「Life on Land」を推し進めていく所存です。

また、私どものNPO法人の当初からの目的である「人と自然と社会の健康の保持・増進」こそがSDGsの「Good Health and Well-being」(Well-being は福祉ではなく、良好な状態が続くことと理解しています)と自負して継続していく所存です。



内閣府認証NPO法人JMCAは、平成20年6月に発足以来
行政や民間企業とタッグを組み、「運動・栄養・保健等の指導者の育成」「子どもの健全育成を図る活動」を
軸に、SDGsの目標3である「すべての人々に健康と福祉を」普及するために、
数々の実績を上げてまいりました。

今後、その活動をさらに発展させ、行政や経済界、医療機関、教育機関、民間団体とともに、

『Let's save the earth!』を掛け声として、

また『命輝くデザイン』をキーワードにした取り組みを進めていこうとしております。